

地域通貨を活用した高齢者への生活支援

地域通貨を媒介とした地域ケアに関する研究 その1

地域通貨 高齢者 共助
生活支援 地域貢献 離島

正会員 〇川島龍太郎*1
同 鈴木 健二*2
同 友清 貴和*3

1-1 研究の背景と目的

介護保険制度の開始に伴い高齢者への介護サービスが整備されつつある一方で、同制度外の生活支援に対する要望も高まりつつある。近年では行政が提供する「公助」や市場が提供する「私助」を補うものとして、住民によるボランティアや相互扶助等の「共助」が重要視されつつある。本研究では、共助の一つとして各地で導入が見られる地域通貨の中でも高齢者への生活支援を中心とした活用が見られる事例を対象に調査・考察を行うことで、地域通貨が地域生活へ及ぼす影響や効果について明らかにする。

1-2 地域通貨の概要

地域通貨とは特定の地域内でのみ流通し、経済・環境・福祉等に関するサービスの互酬的交換を媒介する通貨である。我が国では約400もの事例があるとされているが、都市部に比べると過疎部での事例は未だ少ない。

2-1 調査対象地域の概要

長崎県の離島である崎戸町(2005年4月から周辺4町との合併により現在西海市)で導入されている「さんさん」を対象とした(図1)。昔は炭鉱の町として栄え人口26000人を有していたが、閉山以降は過疎化が進んでいる。

2-2 地域通貨「さんさん」の概要

さんさんはボランティア活動促進を目的に始まった。2003年に町内で流通実験が行われ、継続の要望もあり2004年4月から本格実施に至った。実験結果より離島部である平島・江島ではさんさんを特に必要としていなかった

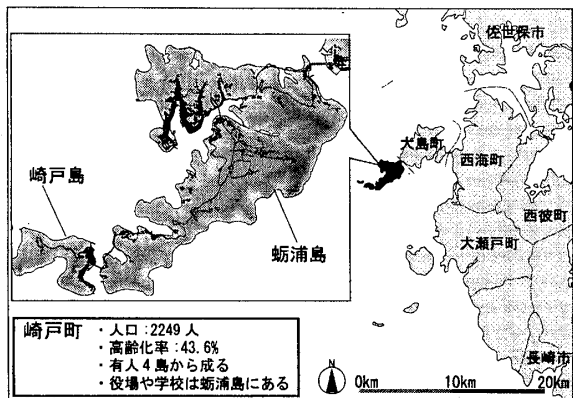


図1 崎戸町と周辺市町村の位置

ため、現在は橋で繋がっている蛸浦島・崎戸島内で流通している。調査時点での参加者は135人であるが、その殆どが60歳以上の高齢者である(表1)。仕事内容は草刈りが大半を占めているが、家の内外を問わず様々なサービスが見られる。こうしたサービスのやり取りをスムーズに行うため、コーディネーターと呼ばれる役職が配置されており、仕事を「できる人」と「してもらいたい人」との仲介が行われている。また、さんさんの導入に携わったN大学の職員・学生の参加が見られることがその特徴として挙げられる。

表1 さんさんの利用状況

参加人数 (H16.10現在)		交換されたサービス内容 (H16.4/1~10/12)			
参加人数: 135名 (町民: 120名 / N大学教員・学生 15名)		家の外		家の中	
男女比	男性 33名 / 女性 87名	草取り	25	掃除	11
		草刈り	16	包丁研ぎ	8
		網戸の張り替え	9	換気扇の掃除	2
		花の水やり	5	食事づくり	5
		大工仕事	2	障子張り	2
		剪定	2	縫い物	4
		病院の送迎	1	家具の移動	2

※集計はさんさん運営委員会によるもの

3-1 調査・考察の概要

2004年9・11月にさんさん参加者20人(表2)を対象に日常生活とさんさんの利用状況についてヒアリング調査を行った。調査結果から、してあげる事が多い参加者を「提供型」、してもらう事が多い参加者を「依存型」と分類し、両者の視点から考察した。「依存型」の殆どは女性の独居高齢者で年齢も75歳以上であるのに対し、「提供型」は半分以上が夫婦世帯の男性で年齢も60歳代の方が多くみられた。

表2 さんさん参加者の属性と分類 (コはコーディネーターを示す)

No.	氏名	性別	年齢	崎戸町居住年数	世帯形態	要介護度	してあげる率	コ
[No. 01]	US	女性	66歳	66年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 02]	UK	男性	62歳	5年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 03]	ST	男性	62歳	7年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 04]	YA	男性	70歳	33年	夫婦+娘	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 05]	HK	男性	66歳	6年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 06]	IM	男性	68歳	68年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 07]	HE	男性	63歳	16年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 08]	IN	男性	71歳	4年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 09]	YS	男性	82歳	82年	夫婦+娘	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 10]	KI	女性	72歳	16年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 11]	WA	女性	61歳	9年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 12]	NH	女性	75歳	25年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 13]	HF	女性	81歳	16年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 14]	OY	女性	79歳	40年	独居	要支援	■■■■■■■■■■	○
[No. 15]	TK	女性	89歳	89年	独居(家族が近居)	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 16]	TT	女性	83歳	23年	独居	要支援	■■■■■■■■■■	○
[No. 17]	MC	女性	74歳	50年	独居	要支援	■■■■■■■■■■	○
[No. 18]	TS	女性	79歳	79年	三世帯同居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 19]	HK	女性	78歳	30年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 20]	KC	女性	74歳	37年	独居	-	■■■■■■■■■■	○

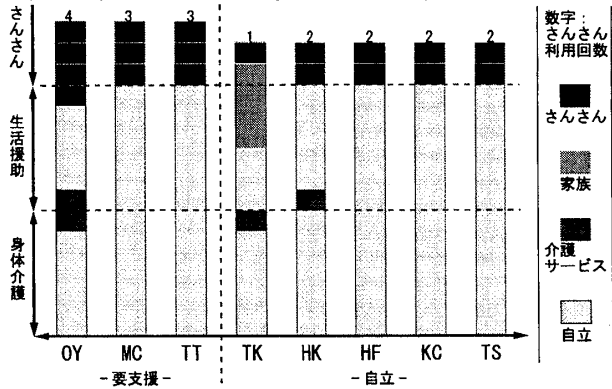
※ヒアリング対象20名については偏りが生じないようにさんさん運営委員会が選定を行っている。

A Study on Community Work Supporting the Elderly's Life through the Community Currency

KAWASHIMA Ryutarō, SUZUKI Kenji, TOMOKIYO Takakazu

3-2 「依存型」の高齢者に対する生活支援

「依存型」の参加者8人の介護サービスとさんさんの利用状況を図2に示す。横軸に要介護度、縦軸に身体介護・生活援助の介護サービスとさんさん利用の関係性を表している。調査時点では自立・要支援の高齢者のみで要介護高齢者の利用は見られなかった。図より要支援だけでなく自立



身体介護…(1) 排泄・食事介助 (2) 清拭・入浴、身体整容
 (3) 体位変換、移動・移乗介護、外出介助 (4) 起床及び就寝介助
 (5) 服薬介助 (6) 自立生活支援のための見守りの援助
 生活援助…(1) 掃除 (2) 洗濯 (3) ベッドメイク (4) 衣類の整理・被服の補修
 (5) 一般的な調理、配下膳 (6) 買い物・薬の受け取り

図2 介護サービスとさんさんの関係図

の高齢者にもさんさんの利用が見られる事がわかる。しかしTKさんのように近所に家族が住む事例では日常的に家族の助けを得られているため、さんさんの利用が少なかった。身体状況や周囲のサポートの有無により、さんさんが果たし得る役割も変化するものと考えられる。

「依存型」の生活展開の事例としてOYさんの例を図3に示す。OYさんは家事はある程度自立しているが、足腰を悪くしており部屋の掃除等についてはヘルパーに依頼している。しかし草刈りや換気扇の掃除等については介護サービスで対応しておらず、さんさんを利用して介護サービス規定外の草刈りや網戸修理をしてもらっている。他の依存型の参加者においても、身体状況や必要性に応じて介護サービスの不足部分をさんさんの利用で補っている事がわかる。

またOYさんの事例では、介護サービスの範囲内であるゴミ出しや新聞回収についても、時間の制約を伴うために時間に柔軟に対応してくれるさんさんをお願いしている。

以上の事から、介護サービスとさんさんを併用する事で互いの不利点を補完していく事が可能だと考えられる。

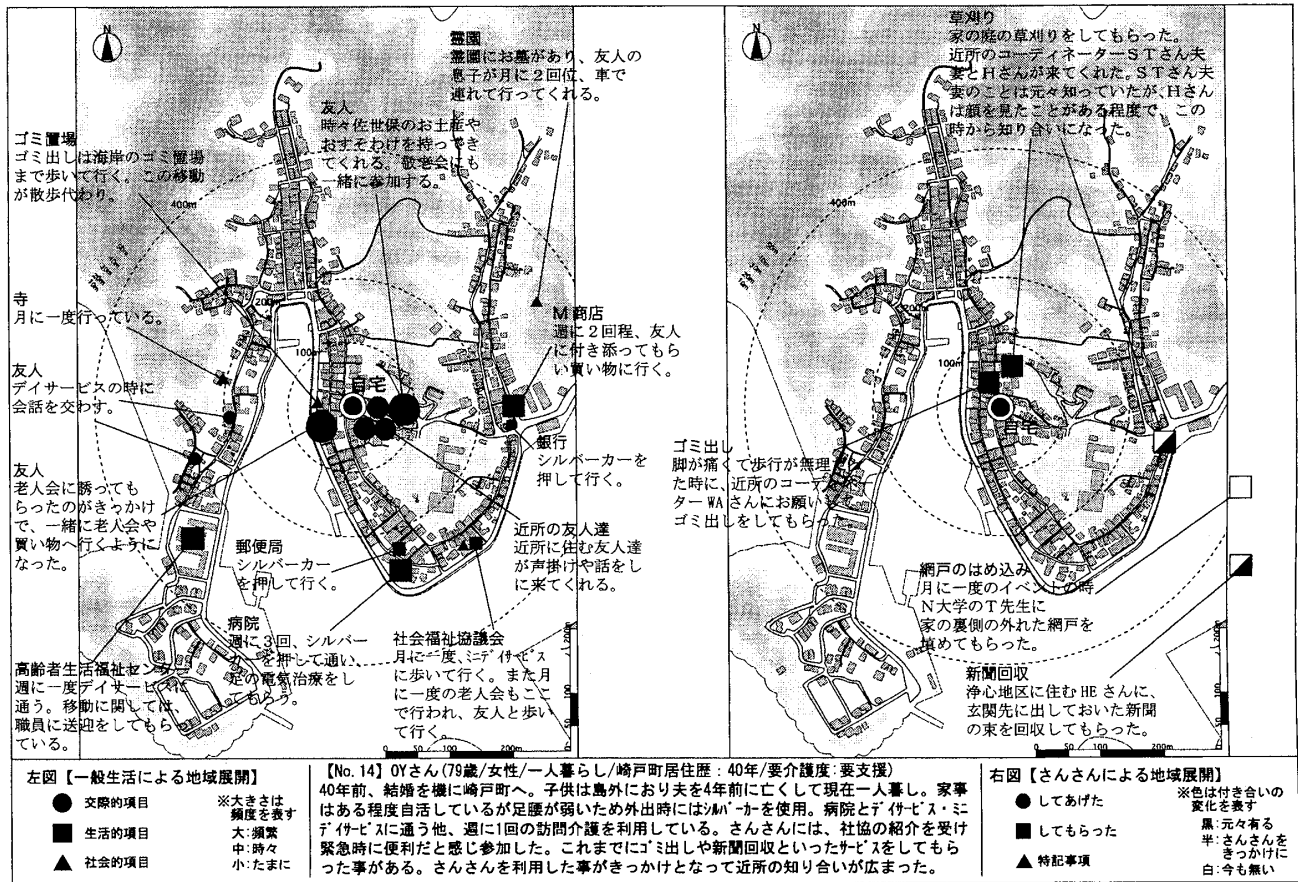


図3 「依存型」高齢者OYさんの生活展開とさんさんの利用状況

*1 NTT ファシリティーズ
 *2 鹿児島大学工学部建築学科 助手・工博
 *3 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

NTT Facilities, Inc.
 Research Assoc., Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng
 Professor, Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng